

## 中国の核の脅威に怯える日本

石井 勇紀

## 1、はじめに

以前テレビの報道番組を見て日本の主要都市に中国が核ミサイルの標準を合わせているというのを知った。ボタン一つで東京壊滅だと報じていて正直恐怖を感じた。もし仮に中国の核ミサイル基地で働く掃除のおばちゃんが「このボタン何かしら」と言って押してしまったらと思うと夜も眠れない。

今回は、中国が核兵器を持った背景や、どのくらい核兵器を保有しているのか、今現在日本は中国の核を前にしてどのような立場にいるのか、また日本はこれからどう対応していくべきなのかを述べていく。

## 2、中国が核兵器を持った理由

中国が核兵器を持った理由は以下の4つあるとされている。

核兵器を持ったアメリカ、ソ連（ロシア）をけん制する意味で持った。

ソ連の核の傘<sup>1</sup>に入ることを中国が拒絶した。

限られた予算から有効な国防力を得るには通常兵器に投資するよりは核兵器に投資する方が効率的に良い。

国際社会で真の発言権を得るため。

このように中国は、核兵器を持ったアメリカ、ソ連のような二大覇権主義国家に対抗するために核武装をして自主的核抑止力を持ち、またその核兵器に対する自主的核抑止力は国際社会での発言権を中国にもたらず。（伊藤 2006、P178~179）

## 3、中国は何基の核ミサイルを保有しているのか

中国は現在、短距離、中距離、長距離の弾道ミサイル<sup>2</sup>を1000基以上保有していると言われている。さらに多数の巡航ミサイル<sup>3</sup>も保有しているらしい。さらに1990年代末時点でのイギリスの国際戦略研究所の見解では、中国は2700発以上の核弾頭を製造する能力を持つとしている。しかし、これらの数値は憶測の数値であって実際に中国がどのくらいミサイルを保有していて、どのくらいの核弾頭を保有しているのかは不明である。（伊藤 2006、P187）

## 4、日本の国防の現状

日本は現在、中国・北朝鮮・ロシア・アメリカなどの核武装した国に包囲されている。残念なことに効果的に核の脅威から国を守るためには自主的抑止力、つまり核武装するしか方法がないとされている。今現在、日本はアメリカから導入したミサイル防衛システムとアメリカの核の傘で他国の核の脅威から守られている。今はそれでしのげるかもしれないが、東アジアの安全保障情勢が悪化した場合にそういった抑止力で国を守る

のかいささか疑問に感じる。(伊藤 2006、 P 3 0 0 ~ 3 0 2 )

## 5、鈍感な日本の国防関係者

中国は、アメリカ軍の攻撃によって破壊することができない高性能の移動式ICBM<sup>iv</sup>やSLBM<sup>v</sup>を獲得した。これによりアメリカ政府は東アジアでの紛争に軍事介入したがないという軍事状況ができてしまった。

そうなると、日本が期待しているアメリカの核の傘が機能しづらくなるということになる。しかし、このことについて日本の国防関係者は事態の深刻さに気づいていないようである。(伊藤 2006、 P 1 9 1 )

## 6、自主的核抑止力構築には15年

兵器システムを設計、製造、試験、配備し実際に機能するレベルに到達するには、15年かかることが多いと言われている。今から15年後の中国は世界最大規模の実質経済力と実質軍事予算を持つ国になっている可能性がある。そのような事態に備えるため、今から自主的核抑止力構築を始める必要がある。(伊藤 2006、 P 2 3 2 )

## 7、おわりに

今、日本はアメリカの核の傘の下で迫り来る隣国の核の脅威の雨から雨宿りしている状態である。しかし、その傘がいつまでも日本の頭の上にあるとは到底思えない。所詮、国と国との関係は利害関係のみで成り立っている。実際に日本が中国から核攻撃を受けたら同盟国関係のアメリカは中国に報復攻撃をするだろうか。アメリカ本土も巻き込んでまで日本との同盟関係を貫くだろうか。

時代は流れるものである。日本の隣国の中国の軍事予算は年々増加する一方だ。それがいつしか最大の脅威となる日が来ないとは断言できない。日本の将来の独立、日本国民の自由の維持を願うのであれば、核の脅威から目をそらさずに考え、行動を起こすのが必要である。

---

<sup>i</sup> 日米安保条約のように同盟国の片方が攻撃されたもう一方の同盟国も反撃に参戦する。

<sup>ii</sup> 大砲の弾のように弾道を描いて飛ぶミサイル(ウィキペディア参考)

<sup>iii</sup> 飛行機のように翼とジェットエンジンを装備し、自律的に飛行するミサイル(同上)

<sup>iv</sup> 大陸間弾道ミサイルの略。有効射程距離が6400キロ以上のものを指す。(同上)

<sup>v</sup> 潜水艦発射弾道ミサイルの略。(同上)

### <参考文献リスト>

伊藤貴(2006)『中国の核が世界を制す』PHP 研究所  
「ウィキペディア」(<http://wiki.xii.jp/>, 2008年10月30日アクセス)